



保健師の いきいき通信

9月9日は「救急の日」です。そして、この日を含む1週間で「救急医療週間」(今年9月8日、14日)として、救急医療及び救急業務についての理解と認識を深めるため、定められたものです。

もしもに備えて、救急車の正しい利用や、応急手当について知っておきましょう。

救急車を正しく利用する

タクシー代わりに救急車を利用したり、緊急性がないにもかかわらず救急車を呼ぶケ



が増えています。病気や事故が発生した時には、救急車が必要かそうでないかを正しく判断しましょう。

救急車が必要な場合

- ・ 災害による傷病者
- ・ 交通事故・屋外や公衆の出入りする場での傷病者
- ・ 心疾患・脳疾患等の病気がケガによる大出血等、命の危険が伴う場合 など

また、救急車を呼ぶ時は次のことを正確に伝えましょう。

- ・ 場所・目印になるもの
- ・ どんな事故・病気が
- ・ 傷病者の人数・性別・年齢
- ・ 傷病者の状態 など

応急手当について

医療機関に引き継ぐまでの手当てを応急手当といいます。

応急手当には

- ・ 心肺蘇生法などの救命のためのもの
 - ・ 止血法・骨折固定法など状態の悪化を防ぐためのもの
- などがあります。



応急手当はなぜ必要?

救急車が通報を受けて現場に到着するまでの時間は、全国平均で約6分。その間、心臓や呼吸が停止した人に何もせずにいた場合、助かる確率は5%以下です。救急の場合、救命効果の向上に、またそれ以外の場合でも治療の経過に影響します。

AEDって?



いわゆる「電気ショック」を安全確実に実施出来るよう作られた機械です。電源を入れれば、機械が音声で操作手順を指示してくれますので、だれでも使うことが出来ます。資格はいりませんが、より安全・迅速に使うために、講習を受けることをお勧めします。

現在、那珂川町では小・中学校などの主要施設に42台のAEDが設置されています。

問い合わせ

馬頭健康管理センター

☎ 0287・92・1188

シリーズ サークル紹介 ⑥

那須民友会小川支部

那須民友会小川支部は平成18年に結成しましたが、前身は昭和40年に宇都宮市在住の藤本秀歌先生を師として誕生した秀歌小川支部です。当時の小川町ではもちろんのこと、南那須地区でも最初の民謡会でした。

その後まもなく民謡ブームが起こりましたが、昭和50年代半ばからカラオケが爆発的に人気となり、民謡はやや押され気味となりました。それ

でも民謡は、日本人の心の唄として根強く定着し、特に近年では日光山唄を始め、馬頭の高野栄氏作詞の鷺子山唄など、十指に余る郷土民謡が普及し、日本有数の民謡県となっています。

一昨年、秀歌先生が泉下の人となり、会の解散も余儀なくされていましたが、民謡を続けたいという会員の思いは変わらず、幸い渡辺運水先生主宰の会への入会を許され、那須民友会小川支部を再結成しました。

毎月第1・第3土曜日、浄法寺公民館で楽しく稽古を積み、町文化祭発表会を始め、各種大会などに参加しています。

現在、会員数は7名の小さな会ですが、民謡を生涯の友として40年余も活動を続けてこられたことを大変誇りに思っています。民謡は私たちの宝物です。仲間を募っています。興味のある方は

那須民友会小川支部長

増子育男まで

☎ 0287・96・3524



広報文芸

俳句

天へつづく棚田千枚穂孕みぬ
 錆にほふ引込線や草いきれ
 夏座敷出しつ放しの将棋盤
 牛の尾の左右に振るる大暑かな
 大の字に拗ねぬし吾子や大暑来ぬ
 雀蛾に見られてをりぬ盗み酒

松野 大高 松竹
 馬頭 塚原 廣
 馬頭 川上 幸男
 三輪 永森 悦子
 下西の原 金井 和子
 小砂 松岡 路石

短歌

たふたぶと波に洗はる岩の肌鋭き目集めて竹島の在り
 猪よけのトタン廻らし山間の稲田を守る老いし農夫ら

馬頭 西宮 定子
 盛泉 岡 イチエ

わが町をテレビで見たと友からのメールの絵文字笑っています

馬頭 五月女トミノ

努力とはきつとどこかで花開くこの名言を胸に刻みぬ

小川 吾妻 洋子

孫からの手紙の文字の拙さはわれの血筋と思へば辛し

谷田 岡崎 甫子

ひしひしと冷気に緊まる会議室に孤立無援の背筋を伸ばす

小川 佐藤 孝子

川柳

炎天下今日も溜息出るばかり
 年金の生活に変化見当たらす
 月並の話題で友と小半日
 ちぐはぐな会話で通じ合う二人
 聞く度に答えの違う母を見る
 うっかりを待ってましたと叩かれる

谷田 岡崎 友子
 大山田下郷 佐藤 有紀
 谷田 屋代 照子
 谷田 岡崎 甫子
 小川 平澤 照月
 薬利 大崎 克明



新着図書

那珂川町 図書館



『八月十五日の夜会』 連見圭一／著（新潮社）
 祖父の遺灰を抱いて沖繩を訪れた大学生の秀二に渡された三本のテープ。そのラベルには「八月十五日、夜」と記されていた。息を呑む証言の数々と無意味な死。生きることへの限りない励ましを伝える渾身の力作。
 さとうきび畑で地獄を見た祖父から平成世代へ。静かな島の醜い戦争を描いた物語。

『おまわり』 宮部みゆき／著（角川書店）
 十七歳のおちかは、実家で起きたある事件をきっかけに、ぴたりと他人に心を閉ざしてしまっただけ。ふさぎ込むおちかを案じた叔父は、おちかに自分の店の客から「愛わり百物語」を聞くよう言い付ける。
 彼らの不思議な話は少しずつおちかの心を溶かし、やがて事件の真相が明らかになっていく。



『もくの内』 尾崎美紀／作（ひさかたチャイルド）
 散歩の途中で出会った「まるくてちっちゃくてまっしろ」なアザラシの赤ちゃん。赤ちゃんは「まるくてちっちゃくてまっしろ」なものを探しているみたい。ほくはそれが何なのかからないます。赤ちゃんと一緒に探していこうとします。表情豊かなイラストがとってもかわいい絵本です。

- ◇『浅田次郎とめぐる中国の旅』 浅田次郎／著（講談社）
- ◇『非常識家族』 曾野綾子／著（徳間書店）
- ◇『いちばん』 畠中恵／著（新潮社）
- ◇『ハリー・ポッターと死の秘宝』 J・K・ローリング／著（静山社）
- ◇『不連続の世界』 恩田陸／著（幻冬舎）
- ◇『なぜ君は絶望と戦えたのか』 門田隆将／著（新潮社）
- ◇『ブラチナタウン』 榎周平／著（祥伝社）
- ◇『赤ちゃんからの絵本ガイド』 さわたさちこ／著（主婦の友社）
- ◇『喜の行列 悲の行列』 藤田宜永／著（毎日新聞社）